

信越化学工業や三菱ケミカルなど化学・素材メーカーが共同設立した投資ファンド「UMI2号投資事業有限責任組合」はベンチャー、中小企業への投資を2020年をめぐりに本格化する。重点投資対象に「CO₂削減」「水」「食糧」の3分野を設定し、ナフサクラッカーの代替技術やバイオ化学品の処理、養殖・農業などに革新的技術を持つ企業に投資する。イスラエルなどの海外ファンドとも連携し、国際動向を見極めながら国内外の有望企業を発掘する。

化学・素材VC「UMI」2号ファンド

「CO₂削減」「水」「食糧」に的 クラッカー代替技術など

組成。このほどテクセリアも参加を決め、これまでに化学・素材12社と三井住友銀行が出資を決定。ファンド規模は現状65億円。今後、銀行などの追加出資で100億円に拡大する見通し。1号ファンドの期限は9年だったのに対し、2号は10年に加えて2年の延長が可能で、中長期視点で投資活動ができるようにした。

「モビリティ・宇宙」「電子情報」にも注目するが、ESG（環境・社会・ガバナンス）投資やSDGs（持続可能な開発目標）といった潮流も踏まえ、2号はCO₂削減など地球環境、国際社会が抱える課題の解決に役立つ革新技術を持つ企業に投資を集める。企業単独では投資しづらい、開発技術を工業化や量産につなげる段階のリスクマネー供給を担う。1件5億〜10億円、計10〜12件の事業や企業に投資する。

CO₂削減ではシエール由来エタンを用いたオレフィン製造、マルチフィード技術、小型高効率のクラッキング技術などを対象にする。技術水準が向上し石油由来に劣らない経済性がもたらしてきたバイオ法による化学品生産では糖などの原料にかかわる企業を探索する。ナフサクラッカー以外にも製造工程でCO₂排出の多い乾燥工程などのプロセス改良技術に注目する。

水分野では日本企業は膜技術に強い一方、価値の連鎖の一部分しか担っており、付加価値を最大限に獲得できていないことが課題。ファンドでは膜ろ過技術のほか新しい水処理技術などのキーデバイスに、運転管理やメンテナンスを組み合わせて事業の枠組みを広げられる機会を探索する。

UMI2号ファンド投資テーマ（事業領域軸）

環境・エネルギー	食糧・農業	ライフサイエンス	モビリティ・宇宙	電子・情報
2050年CO ₂ 削減目標実現技術など地球環境問題対応	世界の人口増大に対応する食糧・農業技術に注目	素材化学企業と親和性の高いテーマを中心に検討	省エネ・環境対応の普遍的技術に注目	益々拡大するデジタル化を支える技術などに注目
1.CO ₂ 削減 2.水	3.食糧	・再生医療 ・創薬支援／合成技術 ・医療材料	・軽量化材料 ・構造材料	・パワー半導体 ・通信デバイス
地球環境・グローバル社会の大課題として意識的に追っていく3テーマ案				

の出番は多そうだ。ファンドが注目しているのは、世界で市場が拡大している水産物の養殖に用いる飼料や稚魚。現在はいずれも天然資源に依存しサプライチェーンのボトルネックとなっており、生産性を高める革新技術を探る。すでに連携先のある米欧に加えて、素材化学の有望技術が多いイスラエルではヘブライ大学のファンドと連携する。成長市場としても魅力の大きいインドでも現地に根ざしたファンドとの連携を計画し、新技術を発掘する。国内ではベンチャーだけでなく有望技術を持つ中小企業にも目を当てる。

ファンドを運営するUMIは出資企業からの出向プロگرامも用意する。投資や新規事業立ち上げのスペシャリストとして育成するだけでなく、出資企業の人材交流を図る狙いもある。UMI設立の背景には欧米に比べて再編が進まない日本の化学産業の文化を、ベンチャー投資や人材育成を通じて変革したいとの思いもある。